

令和6年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1-1. 申請団体

団体名	埼玉県立熊谷図書館			代表者名	館長 小西 康雄
担当者部署(属性)	その他	担当者部署名	ビジネス・産業支援担当	連絡先電話番号	0485236291
担当者役職	主任司書	担当者氏名	山縣 睦子	連絡先E-mail	
住所	3600014 埼玉県熊谷市箱田5-6-1				

1-2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	
		連絡先E-mail	

1-3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（複数団体）	事業名	館内職員研修
概要	埼玉県立熊谷図書館・埼玉県立久喜図書館の職員を対象に、県民の交流・価値創造を促進するサービスの企画・立案の参考となるよう、デジタルアーカイブの現在や活用可能性について御講義いただきたい。また、ワークショップへの御講評をいただきたい。		
支援を求める分野	人材（DX推進のための機運の醸成） 人材（DXに関する知識習得・研修・育成） デジタルアーカイブ/図書館		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2-1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	有	266	令和6年11月15日	事前打合せ	オンライン
		派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	
		令和6年11月8日	支援・助言	14時20分	16時20分
				活動時間（分）	120

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	山崎 博樹
評価	大変よい
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	第2回目の講義内容について、参加者の習熟レベルに応じた的確な御提案をいただいた。実務に携わる職員等のため、3回目は打合せのみではなく、フォローアップ研修も行う御提案をいただいた。
アドバイザーへの要望事項	視覚障害職員を含む職員が事前に用語等を学べる事前テキストの送付

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4-1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】	合計人数	1人		
	属性	自治体職員	住民	企業・団体	その他(学生など)
	人数	1			

4-2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	県立図書館職員が、県民誰もがデジタルコンテンツを保存・公開するシステムを活用し学習や価値創造を行える環境の提供と活用促進のための新たなサービスを企画できるよう、特に技術の進展が顕著な情報化について、学び続けることが課題となっている。しかし、デジタルアーカイブに関する知識・技術が、職員によってばらつきがある。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	技術レベルが中程度の職員の8割が研修内容を理解し、自分たちの企画立案に取り組むことができる。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的にご記入下さい)	講義の主な内容を技術レベルが中程度の職員に合わせることで、興味・関心を維持する。事前に学習しておくテキストを指定する。技術レベルが高い職員が質問できるように、第3回目にフォローアップ研修を行うこととする。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的にご記入下さい)	第2回目は、中程度の技術レベルの内容の講義を行う。グループワークの時間は、研修委員がカメラ・マイクを持ちまわって講師とのコミュニケーションを行う。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	③現段階では課題・問題が残っているため未定 研修スケジュール検討のための情報が得られた。
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的にご記入ください)	第3回目は打合せの予定であったが、技術レベルが高い職員のためのフォローアップ研修とするため、日時・内容を改めて検討する。	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。)アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 参加者1名のため、アンケートなし。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	③現段階では課題・問題が残っているため未定 第2回目にオンラインの講義・グループワーク・発表・講評を行う。
4-4. 事業の最終的な目指す姿	デジタルアーカイブを発展・活用させるために職員が身に付けるべき知識・技術・習得方法を知り、各職員を動機づける。デジタルアーカイブを県民が活用したり、デジタルアーカイブに保存することになる県民の創作を促すような事業案を作成し、実現に向けた課題を発見することができる。	

5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可

掲載許可	<input type="radio"/> 掲載可
------	---------------------------

https://www.r-ict-advisor.jp/cases-case-good-practices/past_year_all_houkoku/

なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください

6. 地域情報化アドバイザー支援の様子

今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG)」を次ページに数枚程度貼り付けて下さい。

